佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

啓明学園初等学校 校長　佐々 信行（さっさ のぶゆき）

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、・ワシントン補習授業校を経て、現職。

修学旅行

修学旅行も、日本の学校に独特の行事でしょう。今では家族で旅行することも簡単にできるようになったので、わざわざ学校で行かなくてもということで、修学旅行をやめた学校もあります。しかし、旅行をとおして学べること、教えられることも多くあります。時代が変わってきたために、昔とは違った意味も感じられるようになりました。先日、啓明学園初等学校では、6年生が三泊四日の旅行に行きました。その様子をご紹介しましょう。

◆ 学習の機会

今も昔も、修学旅行の一番の目的は「学習」です。旅行の行く先も、子どもたちができるだけよい勉強ができるように考えて選びます。ここ数年、京都・奈良・広島が目的地になっています。6年生は、日本の歴史を学習しているので、過去を伝えてくれる建物や場所、残された物などを直接見ることは、もちろん大きな学びになります。旅行に行く前に、子どもたちは4月に歴史の学習を始めてから今までに勉強したことを振り返り、旅行で見学するものについて、さらに詳しく調べます。調べるものを分担して、みんなに分かりやすく情報を提供できるように資料をまとめます。調べる目的も、対象も、情報を伝える相手もはっきりしているので、子どもたちは意欲的に活動します。情報をいろいろな方法で集め、必要な情報を選んで与えられたスペースにまとめる力は、どんな学習にも必要な力ですが、旅行を目の前に控えていると目標をもって活動することができ、とてもよいトレーニングになります。調べた結果を、「修学旅行のしおり／資料編」にまとめます。それが出来上がると、達成感もあり、旅行に対する期待もふくらみます。

法隆寺で

旅行先でも、自分が調べた事柄に関しては、とくに関心を持って見学ができるし、友だちに説明することもできます。プロのガイドさんの説明は、小学生には難しい内容も少なくありませんが、予備知識を持っていることが理解の助けになります。

ホテルに入ってからは、毎晩、その日の見学や体験を振り返り、感想を話し合ったり、意見を交換したりします。実際に経験して来たばかりなので、子どもたちは活発に発言します。教室ではなかなか手が上がらない子が、修学旅行でしっかり発言して自信をつけることもあります。同じものを見ても、そこまでの学習や経験の積み重ねによって、見え方は同じではありません。子どもたちの新鮮な目で見た発見に感心することも少なくありません。「一番印象に残ったところ」を聞いてみると、ほぼ同じコースをたどっていても毎年違った傾向が出るのもおもしろいことです。

旅行を終えて学校に帰ってからも、共通の経験を持ったことは、その後の学習に大変役立ちます。修学旅行の学習効果は、旅行の前から後まで、長い間続きます。

◆ 生活をともにする

大勢が一緒に旅行するので、安全を守り、気持ち良く生活するために、いろいろの仕事を分担します。

今年の6年生は、8人ぐらいずつの班に分かれ、班長・副班長・食事係・美化係・風呂係という役を作りました。班を編制するところから、役割を決める、仕事を実行する、上手く行かないところを修正し、調整するなど、小さな社会を動かして行くためにさまざまな経験をします。約束を守れない人や責任を果たさない人